

車輪梅

<鹿島中学校 学校だより>

【令和2年2月号③】

感染症予防対策の徹底を！

《重点目標》『自立した品格を目指し 今何をすべきかを考え 実行しよう』

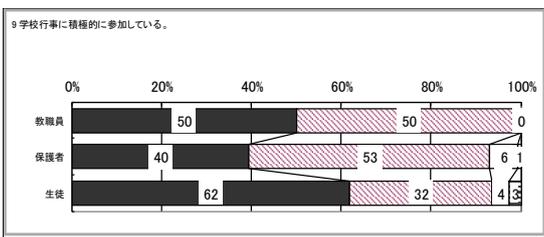
保護者の皆様には、お忙しい中、学校評価アンケートにご協力いただき、感謝申し上げます。皆様からの評価をもとに、鹿島中学校が、すべての生徒にとってよりよい教育活動の場になるよう、努めてまいります。今後とも、ご支援とご協力をお願い申し上げまして、アンケートのお礼と結果のご報告とさせていただきます。

<健康で忍耐強い生徒の育成>

9 学校行事に積極的に参加している。

評価の平均値は昨年度のものとは比べ教職員が0.3ポイント、保護者・生徒は0.1ポイント下がった。これは、学校行事の中でも一番大きな文化祭前に、台風や大雨の影響により臨時休業や繰り上げ下校を余儀なくされ、文化祭準備の簡略化によって思うように文化祭の準備に当たれなかったことが影響したものと思われる。全体の平均値は昨年度と同様、3.4と高い値を維持している。文化祭を初めとする学校行事は、自分たちでよりよいものを目指し、見通しを持ってその目標達成に向けて忍耐強く努力していく姿勢を育てる場であり、今年度のスローガンの「不屈」に通じてくるものである。他の項目と比べ依然として高い評価結果であり、学校行事に多くの情熱をかけ、目標達成に向けて学級や各種係り活動等、一丸となって取り組んでいることを示しているのとらえられる。

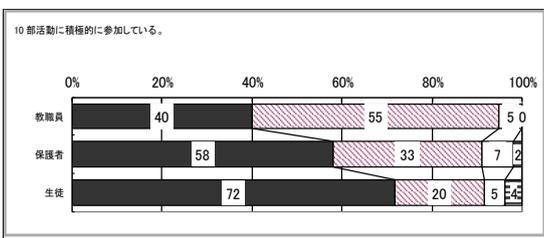
《今後の取組》今後も行事の機会をとらえ、生徒が主体となって計画・実行させる場を設定し、達成感や達成感の感得を通して生徒の成長を図ることができるよう指導に当たっていききたい。



10 部活動に積極的に参加している。

昨年度との評価の平均値の比較では、教職員と保護者は昨年度と変わらず、生徒は0.1ポイント下がった。新人大会のシーズンである9・10月が台風の影響により部活動が思うようにできず、中には新人大会自体も中止となった競技があったことが影響していると考えられる。それでも全体の平均値は3.5と昨年度同様、高い結果となった。この評価項目は、教育目標の「体：健康で忍耐強い生徒」、スローガンの「不屈」の具現に最も関与している項目である。運動部・文化部それぞれにおいて県大会に出場できた部が、8種目・13競技あり、体力や技能が向上している成果と見ることができる。72%もの生徒がA評価であることから、実感を伴った評価の表れと受け止めることができる。

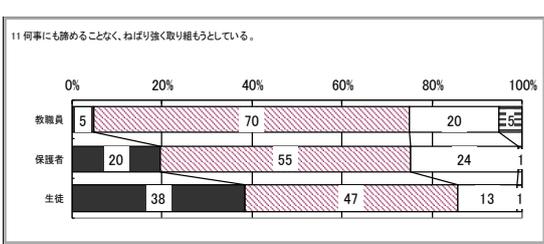
《今後の取組》今後も継続して部活動において、心と体の両面を伸ばし、達成感や成就感を次へのモチベーションや自信につながるよう指導にあたっていく。



11 何事にも諦めることなく、ねばり強く取り組もうとしている。

昨年度との評価の平均値の比較では保護者、生徒は昨年度と同じであったが、教職員は0.2ポイント上昇した。これは、大山加奈さんの講演会や報徳仕法などの学習をはじめ、学級活動や道徳の時間などの生徒の感想に、これからは粘り強く頑張ろうとする生徒の前向きな姿勢が以前よりも感じられたとする教職員が多かったためと思われる。評価項目の「9 学校行事に積極的に参加している。(体1)」は学校行事に焦点化されている内容であったが、本項目は学校生活全般における取り組み姿勢について問う内容である。教師や保護者の評価が一番厳しい結果であるのは、学力向上面に関する課題や、授業や生活場面で「もっとねばり強く取り組めば、より向上が期待される」という受け止めと思われる。

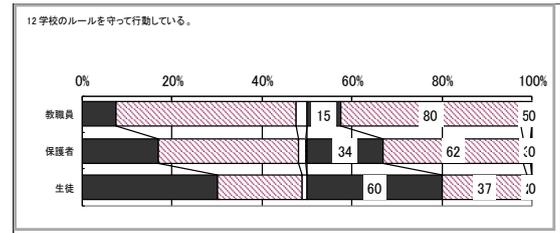
《今後の取組》将来につながる学力向上に向けた家庭学習への取り組み、生きる姿勢を学ぶべき偉人の話など、生き方に関わる具体的な目標を持てるように考えさせる機会をこれからも多く設定し、心に働きかけていけるような指導をする必要がある。



12 学校のルールを守って行動している。

昨年度との評価の平均値の比較では、教職員は変わらなかったものの保護者が0.1ポイントの減少、生徒が0.1ポイントの増加となった。今年度も交通・防犯教室、スマホ教室を開催し、警察署や携帯電話会社など、関係機関の協力を得ながら、生徒たちの規範意識の向上に努めてきた。また、学校生活においても重点目標にある「品格」と結びつけ、適宜ルールを遵守する大切さについて指導してきた。2学期末の生徒会役員選挙立会演説会においても「品格をもった鹿島中学校にするために」等の内容が、過半数の立候補生徒から聞かれるなど、生徒の側からも、学校、交通安全におけるルールを守ることの大切さの声が多く上がっていた。一方、教職員の評価が厳しいのは、学校生活において改善の余地がまだあることを踏まえての結果と思われる。

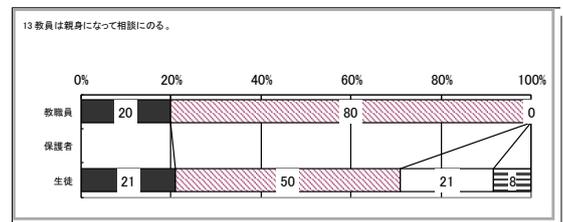
《今後の取組》 今後も学校、交通安全を軸としてルールを守るとは最終的には自分の身を守ることに つながることを理解させるよう継続して指導に当たるとともに、ルールやマナーを守っている生徒の行動やよい場面をとらえ、具体的に生徒を認め褒める場も設定していく必要である。



13 自分によいところがあると思う。

今年度新たに設定した項目である。他のほとんどの項目において、教職員の評価の平均値の方が生徒よりも低く出ているが、この項目では反対に教職員(3.2)、生徒(2.8)であった。全国学力・学習状況調査においても自己肯定感の低さが多くの学校で取り上げられていたが、本校の生徒も同じ状況であることが浮き彫りとなった(全国:2.96、本校:2.77)。学年別に見てみると、1学年(3.06)、2学年(2.71)、3学年(2.78)と1学年以外は3.0を切っており、学年が上がることにより低い平均値となった。思春期を迎えこれまでよりも自分を客観視することができるようになるとともに、思春期のまっただ中に突入したことによる不安感の増大が一つの要因と考えられる。

《今後の取組》 国際的に見ても日本が際立って低い項目であることを考えると、地域社会が一体となって取り組むべき課題と考えられる。できたことを教師が共に喜び、認め、賞賛する場をこれからも多く持つとともに、学校、家庭、地域社会の一体となった体制が望まれる。



<学校関係者評価委員より総括>

- ◎ 全体的に高い評価となっており、教職員、保護者、生徒のよりよい信頼関係が構築されていることの表れと見て取れる。
- ◎ 家庭学習への取組は、先生方のチェックや励ましの朱書きが大変だが、家庭学習の意義について生徒にも実感させ、根気強く取り組ませてほしい。
- ◎ いじめに対しても、かなり注意を払って早期発見・早期解決に努めている。今後も心豊かな生徒の育成に向けて、北風よりも太陽で生徒たちをやわらかく、あたたかくつつみ、自己肯定感を高めてほしい。
- ◎ 先生方の勤務環境について、多忙化の解消に向けた取組も待ったなしの状況なので、働きやすい環境づくりに今後も努め、一人一人の生徒に心配りのできるようにしてほしい。